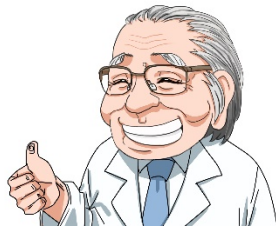


## 口腔細胞診 早わかり



昨日、口腔がんを早期に発見する運動の一環として立ち上げた「口腔細胞診 Expert 講座」の第 8 回目の講習会が終了しました。毎回 5-6 名の限定ですが、朝 10 時～午後 4 時まで、皆さん熱心で、昼食やおやつを挟んだ和やかな雰囲気の中、みっちり勉強もできたのではと、勝手に思っています。今後、内容を少しずつブログにも挙げて行こうと思っています。

今回は、一番強調したい、「細胞診で口腔がんを早期に発見するために設けた」、液状化検体細胞診、Liquid based cytology : LBC の新報告様式のなかで、「低異型度上皮内腫瘍性変化あるいは上皮異形成相当」 Oral low-grade squamous intraepithelial lesion or low-grade dysplasia, : OLSIL の細胞学的な特徴を記載します。

### 細胞学的に OLSIL とは？

1. 光輝性の亢進のみられる OG 好性角化細胞をみる。
2. 集塊の場合は、多様性は軽度である。(OHSIL との違い)
3. 無核角化細胞はないか、きわめて少ない。(NILM との違い)
4. OG 角化細胞、LG 表層細胞にケラトヒアリン顆粒は目立たない。(NILM との違い)
5. LG 好性表層細胞では、核肥大はあっても、  
クロマチンの増加はなく多様性は乏しい。(OHSIL, SCC との違い)
6. 深層細胞は通常なく、ある場合でも核異型は乏しい。(再生変化との違い)

次回からは、1 項目ずつ解説して行きます。